

# 令和8年度 八王子市立川口小学校 学校経営計画

校長 長田 猛

<b>学校教育目標</b> ○よく考える子（基礎・基本の定着から主体的、対話的、深い学びへ） <b>ビジョン</b> <b>1.目指す学校</b> ○基礎・基本の定着を図り、学ぶことに自信を付ける。 <b>2.目指す児童像</b> ○主体的に学び考えを伝え合う子 ○あきらめず取り組む子 ○キャリア教育に取り組み将来の夢やあこがれをもつ子	「みんなで創ろう『日本一安心・成長できる学校』を学校・家庭・地域の共通目標として協働し創り上げる」 <b>◎思いやりのある子（自己肯定感を高め互いを尊重する）</b> ○心が豊かに成長するよう保護者・地域と協力する土台を構築する。 ○「生命の尊さ」を核とした心の教育の充実を図る。 ○「すなお」な気持ちを育成し、やさしい言葉で伝え合う子 ○「いじめない力」を高め、友達を大切にする子 ○家族に感謝し、地域の活動に参加する子	○健康な子（健康について考え心身を大切に） ○健康に関心をもち心と体を大切に。 ○自分の健康に関心をもち規則正しく生活する子 ○危険を予測し、安全に行動する子 ○感染症や熱中症にならないよう気を付ける子
---	---	---

**3.本校の現状と課題**  
 ・すなおな気持ちで話を聞くことや主体的に学ぶことに課題がある。そのため、基礎・基本の定着を積み上げることに課題がある。  
 ・言葉遣いや自分の考えをすずんで伝えることに課題がある。タブレット端末の使い方にも課題があるため、きまりを守って安全に活用できる力を育成する。

領域	中期目標	短期目標	具体的方策
① 確かな学力の育成	○基礎的・基本的な学力の定着	・算数科における基礎・基本の定着【重点】 ・学習規律を身に付け、導入を工夫し主体的に学ぶ授業	・児童用端末及び紙面による計算ドリルやプリントを有効に活用し、既習学習の確実かつ定期的な定着を図る。 ・導入時に既習学習の振り返りを行うなど、系統的な既習学習を重視する。 ・子どもの学習意欲が高まるよう、実生活に関連付けた学習課題を工夫するとともに、スモールステップによる成功体験を積み重ね、振り返りを通してできる喜び、学ぶ楽しさを味わわせる。 ・抽象的な理解については、視覚的なICTの効果的に活用する。具体的操作活動を取り入れるなど、体感を通し理解できるようにする ・認知の仕組みを理解し、授業に取り入れる場面を開発、共有していく。 ・「椅子を引いて座る」、「話をしっかり聴く」、「時間を守る」【令和8重点】
	○自分の考えをもち、すずんで伝え学び合う力の育成	・「主体的・対話的で深い学び」の推進【重点】 ・国語科を核として、「自己の考えを形成」し、進んで「伝える力」を高める。【重点】	東京都「デジタルを活用したこれからの学び」への挑戦 ・クラス全員が分かって、初めて「分かった」と言える学級（教え合える） ・一人一人の思いや意見が尊重される学級（認め合える・出し合える） ・個の間違いを全体の学びに活かすことができる学級（安心して間違えられる） ・集団効果を最大限に活かした学び（異学年・興味・関心・習熟度等によるグループ編成） ・国語辞典や学習用端末を活用し、語彙を豊かにし、思いや伝えたいことを文章に表現、交流する力を身に付ける。
	○全学年「一部教科担任制または交換授業」の実施	・今年度中に学年で学期ごとに話し合い決定・実施する。	・教師の授業力向上、働き方改革、生活指導の側面から、全学年一部教科担任制または交換授業に取り組む。（令和8年度本市では高学年教科担任制の導入必須項目）
	○「川口スタンダード」の試行的実施	・年度当初に「川口スタンダード」作成。試行実施	・川口小学校として、算数科を核とした基本となる板書やノートの取り方等の検討・実施
	○自らの人生を切り開く「キャリア教育」の充実	・将来の姿（職業等）について、多様な生き方を学ぶことにより、将来に夢や希望をもたせ、幸せな人生を目指し、主体的に未来に向かって歩む子どもたちの「キャリア形成」を支援する。	・地域教育資源を最大限に活用した学びの推進（「地域とともに学ぶ」） ■地域における「良質な体験」（ヒト、モノ、コト）との出会い、ねらいに沿った良質な「気持ち」と社会に変化をもたらす課題発見、課題解決への挑戦機会の創造 ・「保護者・地域連携型キャリア教育」の推進（今後） ・各教科における探究的な学びと、教科横断的な学びの開発、共有（今後）
	○学びにおける「Try & Error」の保障	・子ども・教師のTry & Error過程の重視。	・子ども・教師のTry & Error過程に最大の学びと成長があることを教職員、児童が共通認識をもち、助け合い挑戦しよう学びを重視する。
心の教育の充実（重点）	○「心理的安全性」の確保	・相談体制の充実 ・「人間理解に基づく組織的指導・支援」の徹底 ・不適応行動への指導・支援スキルの獲得と連携体制の確立	・挨拶・笑顔・助け合いを大切にし、子どもに信じられない愛情をかけ並走することで、子どもの心理的安全性を担保する。 ・子どもに不安やトラブルが生じた場合は、組織力を生かして迅速・丁寧な聞き取りを行うことで心的状況を整理し、子どもの解決を包括的に支援することで子ども達の「成長の機会」とする。 ・「日本一安心・成長できる学校」づくりに向け、挨拶・笑顔・助け合いを大切にし、子どもに信じられない愛情をかけ並走することで、子どもの心理的安全性を担保する。 ・児童の「不適応行動」への対応・支援方法について、研修や試行、効果的取組の情報共有を通して学校としての土台となる対応・支援方法の開発に努める。「当該児童と学級児童全員の成長」を中心に、おき、学校と保護者、関係機関等との協働的な連携、方針の統一化に努め、児童を包括的に指導・支援する。
	○「心の教育」の推進	・教育活動全体を通して自己肯定感や自己有用感を高め「夢をかなえる学校」を創る。 ・全教育活動を通して「心の育成、規範意識の醸成（型の指導と心の耕しの両輪）	・「心の教育」をカリキュラムマネジメントの柱とし、教育活動全体を通して自己肯定感や自己有用感を高める。教員研修の充実。 ・集団生活における各場面において、正しい「型」を指導するとともに、その意味について考え理解する機会を保障することで、主体的・継続的に取り組める児童を育成する。 ・特別の教科・道徳を要とし、自他の生命や思いを尊重する心情を養う。本音で伝え合う道徳の授業を積み重ね、学んだことを行動できる「動徳」を目指す。
	○コミュニケーションスキルの育成	・全教育活動を通して望ましいコミュニケーションスキルの育成	・全教育活動を通して自尊感情や相手意識を高めるとともに、望ましいコミュニケーションスキルを育成する。（特別活動に重点）
	○「いじめ防止」の徹底	・「いじめ対応は第一優先」への取組の推進 いじめ対策委員会を核とした迅速かつ組織的対応 「いじめ対応の時間」の充実 ・「弁護士による法教育授業」の実施 ・言語環境の改善	・子ども、教職員のいじめへの感度を上げ、いじめの芽の発見段階で、迅速かつ組織的に「即日解決」に取り組む。【重点】 ・週1回の「いじめ対応の時間」生活指導夕会を有効に活用し、全教職員が校内の状況を自分事として共有し、課題解決を図る。 ・「弁護士による法教育授業」を実施し、いじめの四層構造を理解させるとともに、いじめは人権問題であり、決して見過ごしてはいけぬことを理解させる。【R8より】 ・子ども・保護者が安心して「誰とも相談できる体制」づくりに取り組み、学校への安心感・信頼感を確保する。 ・毎月の「ハートタイムアンケート」、「生活調査アンケート」、「子ども見守りシート」、Q-U調査、子ども・保護者からの相談・連絡等によりいち早く、「不安段階でいじめの芽」を抽出し、迅速かつ組織的に解決を図る努力をする。 ・子どもや保護者の不安が生じた段階で、迅速・丁寧に聞き取りを行い組織的に解決し、子どもの「成長」と家庭との「信頼関係構築」につなげる。
	○「子どもが主役の学校」（「自分たちの学校は自分たちがつくる学校」づくり）	・特別活動の充実 ・『最高学年の壁』への対応の模索【令和8年度】 ・「意思決定力」「合意形成力」の育成	・特別活動を中心に、自分たちの学校や学級をよりよくするための取組を、主体的・協働的に思考し、判断し行動、改善していく過程で、将来、地域や社会づくりの主体となっていく力を育成する。 ・小学6年生においては、「保護者・地域連携型キャリア教育」、「中学校と連携した進路指導」を行い、将来へ見通しをもたせるとともに、小学校最終学年としての納得できる学校生活や今後の自分らしい生き方を考え、実践できる力を身に付ける。 ・話し合い活動において、互いの考えを尊重し「意思決定力」「合意形成力」を高め行動できるようにする。
体力向上、保健指導	○日常的な体力づくりと、すずんで運動に親しむ児童の育成	・体力・健康の保持増進ため季節に応じた教育活動を充実させる。	・体力・健康の保持増進ため季節に応じた教育活動を充実させる。 ・体育授業の工夫改善と、体力づくりに向けた取組の充実 ・「体幹」を鍛える（c.f.授業中の姿勢）【重点】 ・体力調査等の結果を踏まえ、全校で持久走やボール投げを意識して取り組み体力向上を図る。
	○健康・安全教育の充実	・家庭と連携した望ましい生活習慣の定着と、日常的な健康・安全教育、食育の充実	・体育・保健、および、家庭科、給食指導の時間を活用し、健康教育や食育を充実させ、健康な生活の大切さを学ぶとともに、規則正しい生活習慣を身に付けられるよう家庭と連携した取組を実施する。
	○感染症や熱中症の予防	・感染症流行時の手洗い換気の励行 ・熱中症予防に向けた取組の徹底	・感染症の流行時は、手洗い換気を励行し、自他の健康に気を配って行動する力を向上させる。 ・熱中症予防に向け、WBGTの活用と共に、定期的な水分補給・休息、運動強度・場所の調整を行う。
保護の者連携・地域	○「開かれた学校づくり」の推進	・保護者・地域の協力を得ながら、風通しのよい開かれた学校づくりを目指す。【重点】 ・保護者・地域と協働した学習支援体制の構築	・校長室・学校の常時開放 ・保護者・地域への適切な情報発信と交流を通し、子どもの成長を中心とした信頼ある学校づくりを連携・協働し進める。 ・保護者・地域による「子どもの学び応援団」の拡充を図る。
	○地域教育力の開発・連携の推進	・心の教育の意識化を図り、保護者・地域と共に取り組んでいく。	・学校運営協議会では、学校、子ども、教職員の状況や教育活動の内容を共有するとともに、より良い学校づくりに向け協議を深め、「学校の応援団」としてサポートをいただく。 ・キャリア教育を核に、地域教育力の開発、有効活用を図ることで、地域に生きることもたちが安全、安心して将来を築けるよう支援体制を構築する。
進路指導等	○小中一貫教育の充実	・児童・生徒の交流を図り、教員相互も連携し、児童の円滑な接続を図る。	・小中一貫教育の方針を踏まえ、川口中学校グループ5校と連携し、教員同士の情報交換も行いながら中学校への円滑な接続を図る。 ・年3回の小中一貫教育の日だけでなく、部活動体験や4組との交流等を通して、「合同・一体化」を目指す。また、小学校同士の交流も計画的に検討・実施を行う。
	○キャリア教育の推進	・地域の人材を活用し、キャリア教育や環境教育を行う。	・専門家の協力を得て、川口川の豊かな自然に触れ生息する生物の観察を通して地域を大切にすることを育む。 ・6年生の総合「私の将来」プロから学ぶでは、多様な職種のゲストティーチャーを招き、自己の将来、生き方について視野を広げるとともに、中学校の職場体験につなげる。 ※第6学年『保護者・地域連携型キャリア教育』の試行（令和8年度） ・地域教育力の開発と試行